



白虎隊の會長崎支部だより



第4号

平成26年12月28日

発行:長崎支部

会津・白河旅行

9月13日(土)から15日(月)まで2泊3日の行程で、白虎隊の會長崎支部会員6名、非会員3名の合わせて9名で福島県の会津若松と白河を観光して来ました。天候にも恵まれ東北の雄大な自然を満喫するとともに、今回の目的である会津藩の史跡めぐりでは、鶴ヶ城や飯盛山など行く先々で深い感動を味わいました。以下に訪問先など今回の旅行の概要を簡単にご紹介いたします。

9月13日(土) 白河市 福島桜プロジェクト職員の安司弘子氏にガイドを依頼し、南湖公園、南湖神社、白河関、小峰城、白河戊辰見聞館、白河ハリストス正教会を案内していただきました。広大な南湖やこの時期に可憐に咲く睡蓮に感動しました。(3日間とも感動の連続でした。) 白河戊辰見聞館では松平容保や西郷頼母の掛け軸、飯沼貞吉や山川健次郎の書簡、スナイドル銃など貴重な資料を見ることができました。夜は龍興寺でご住職様のご協力の下、地元の方たちと交流会を持ち、美味しい料理を食べながら白河での戊辰戦争の話題で花を咲かせました。



南湖神社



白河関跡



白河戊辰見聞館を見学



龍興寺で会津藩の白河での戦いを熱く歌う語り部さん

9月14日(日) 会津若松市 茅葺き家が多数保存されている大内宿や、西郷家の墓がある善龍寺、鶴ヶ城本丸から移築した御三階や新選組の斎藤一の墓のある阿弥陀寺を見学しました。その後、郷土史家で白虎隊の会顧問の佐藤一男氏から鶴ヶ城や、旧滝沢本陣、飯盛山を案内していただきました。さすがに鶴ヶ城は観光客で賑わっていました。一番上の展望所からの眺めは最高でした。飯森山では白虎隊士の墓を訪問し、お線香を上げ若くして世を去って行った隊士たちに思いを寄せました。



大内宿



阿弥陀寺



鶴ヶ城



白虎隊十九士の墓

9月15日(月) 会津若松市 前日に引き続き佐藤一男氏に案内していただきました。まず、会津藩主松平家墓所を見学し、墓所としてのスケールの大きさ、碑石の巨大さにびっくりしました。さすがに23万石のお殿様の墓だけのことはあると大いに感心しました。その後、会津武家屋敷や日新館、戸の口原古戦場、土津神社を訪問しました。会津武家屋敷では会津藩家老の西郷頼母邸が復元されており、外から各部屋を見学して回りました。土蔵を利用して作られた会津歴史資料館には興味深い資料が多数展示されており、特に山川浩や中野竹子の詩などには興味を惹かれました。(文 草場里見 写真 吉武廣司)



会津武家屋敷



日新館

日下義雄のご親類と再会

9月14日、宿泊先の東山第一ホテルへ会津坂下町から上野嘉代子・石田久美子ご姉妹が訪ねて来てくださいました。お二人は平成25年1月26日、長崎市で白虎隊の会長崎支部が行った日下義雄の説明版除幕式の際にわざわざ福島県から駆けつけてくださった方々です。久しぶりに再会できてとても光栄でした。石田家の家系についてご説明しますと、日下義雄の祖父は石田五郎左衛門と言ひ、男の子が4人いて三男が日下義雄の父、石田龍玄です。そして長男、七郎左衛門の子孫が上野嘉代子・石田久美子ご姉妹で、石田家本家のご出身です。お二人は小さい頃祖母からよく日下義雄の話を聞かされたそうです。分家とはいえ石田家出身の者が福島県知事にまでなったことで、祖母はとても名誉に思っておられたことでしょう。長崎市内に上水道を創設したり下水道を整備した日下義雄の功績を長崎県人は忘れてはならないと思います。

(草場里見)



会津若松市の東山第一ホテルにて

日下義雄の妻 可明子夫人の墓所清掃

第8代長崎県令で官制変更により初代長崎県知事となった旧会津藩士、日下義雄の最初の妻 可明子夫人が脳充血を患って亡くなったのは1886年(明治19年)12月11日。今年で没後128年になります。

1859年(安政6年)に、幕府の御用商人山内家の第4女として江戸飯田町に生まれた可明子夫人は1875年(明治8年)、16歳の時に日下義雄と結婚しています。

白虎隊の会長崎支部では12月7日(日)、会員5名が皓臺寺にある可明子夫人のお墓を訪れてお線香を上げてお参りをしました。また、購入して来たお花立てに花を飾るとともに、お墓の掃除も行いました。

(草場里見)



講演

長崎支部顧問である長崎歴史文化博物館館長の大堀 哲先生が、長崎南ロータリークラブにて、『いま、なぜ「日本人の心の再生」か～会津藩の教えから考える』と題して卓話をされました。

内容は、①会津藩と藩祖・保科正之②会津藩の教育と現代③日本人の心の再生④手塩にかける教育とは何か～味噌汁教育論⑤いつの日も花は咲く、と大きく5つに分けて話されました。論理的には説明できなくとも非常に重要なことはたくさんあり、年長者が年少者に徹底的に教え込むことが大事である、日本人が古来から持つ情緒や人間にとっての行動基準、判断基準となる精神の形・すなわち道徳を見直すことが重要であり、武士道精神の復活が求められる・・・等等。詳しくは紙面の都合上割愛させていただきます。

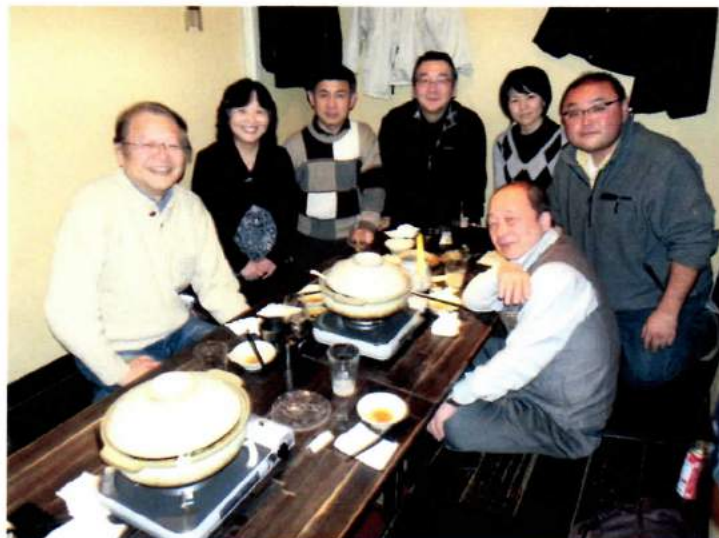
(高久和也)



—今年を振り返って—

長崎支部長 工藤新一

今年の活動は、吉武会員のお宅での新年会から始まり、私の入院先の面会室での例会や念願の会津・白河旅行を行いました。会員もお二人増えるとともに、長崎歴史文化博物館での例会では「会津和人参」についての映像学習を行いました。恒例となった日下義雄夫人のお墓参りと清掃ではお花とお線香を供えました。その後忘年会を開いて親睦を深めました。支部として一応の目的は果たした1年でした。ただ、下関支部と一緒に会津旅行ができなかったことは残念でした。来年は日帰りの史跡探訪や下関支部との交流などを計画していきましょう。



忘年会